

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
1 書くことを基本に自らの考えを整理し、深く思考することで論理的思考力および批判的思考力を育成し、課題発見・解決能力を身につけ生きる力を育成する。その際、ICT機器はもとよりディスカッションや反転学習などアクティブ・ラーニングの手法を活用する。	① アクティブ・ラーニングやディスカッションを授業の中に導入するなど、授業の工夫を図っている。	アクティブ・ラーニングやディスカッションにより学習効果が高まる(a 強く + b やや)と感じている生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	a 強く 22.0% (20.0%)〈22.2%〉 b やや 48.8% (49.0%)〈44.7%〉 c あまり 23.0% (24.7%)〈23.9%〉 d 全く 6.0% ( 6.0%)〈 6.8%〉  結果 70.8%(B評価) (69.0% C評価)〈66.9% C評価〉	「強く」+「やや」が昨年度より3.9ポイント向上し、B評価となった。少しずつではあるが、確実に生徒にアクティブ・ラーニングやディスカッションについての意識が高まっている。これらを通じて、思考を深め主体的対話的で深い学びにつながる授業がより日常的なものとなるようさらに取り組みを進めていきたい。
	② 授業の中で生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力を育成する場面、教師と生徒とのやりとりの場面を設定している。	日々の授業において、考える必要のある質問をし、生徒が発表(発言)する場面(a多く+b時々)設定している割合が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	a 多く 40.7%(56.6%)〈41.3%〉 b 時々 51.9%(37.7%)〈52.2%〉 c あまり 7.4%( 5.7%)〈 6.5%〉 d 全く 0.0%( 0.0%)〈 0.0%〉  結果 92.6%(B評価) (94.3% B評価)〈93.5% B評価〉	「多く」+「時々」が92.6%と昨年度より0.9ポイント下降した。その中でも、「多く」の割合が大きく下がっている。発問の吟味や生徒の表現場面の設定は、生徒の主体的な学びを実現するために不可欠なので、さらなる授業改善を進めていきたい。
	③ 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。	1,2年生で平日の平均家庭学習時間が120分以上である生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	学習時間調査 1年 34.3%(35.7%)〈39.2%〉 2年 44.9%(42.0%)〈62.9%〉  結果 1、2年生ともにD評価	前年度同時期に比べ、1、2年生ともに下回った。今年度前期と比較すると現1年生は1.4ポイント下がったが、2年生は2.9ポイント上がっている。来年度に向け、担任、授業担当者、部活動顧問がそれぞれの立場でそれぞれの学年における家庭学習の必要性を再認識させていきたい。
	④ 朝学習の充実により、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。	朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	1年 70.4% : B評価 (76.7) 〈73.3〉 2年 81.4% : A評価 (77.6) 〈65.2〉 3年 76.4% : B評価 (77.0) 〈79.4〉	【1年】 担任や学年集会での学習習慣確立への粘り強い働きかけと「学習して小テストに臨む(普段を大切に)」声かけを行ったが2.9ポイント下がった。進路目標と現状の学習との関連、今何をすべきかを明確に生徒に提示し『気づき』を起こさせるような指導を継続して成果を上げていきたい。  【2年】 1年を通して朝学習に真摯に取り組んだ学年である。朝学習をひとつの軸として学習の良い習慣ができた。マンネリ化を避け、朝学習の内容を工夫し、朝の小テストだけにとどまらず、「再テスト」や「確認テスト」を行うことで、学力の定着を図った。朝学習で身についた持続力を来年度は普段の学習でも活かしてもらいたい。  【3年】 どの教科も小テストを中心に朝学習を行った。まじめに最後まで取り組む生徒も多く効果が上がったが、徐々に取り組みが甘くなる生徒も見られ、事後指導が来年度の課題となる。
学校関係者評価委員会の評価	・新聞などを読んで文章を書く取り組みは非常によい。要点を簡潔にまとめる力、伝える力をしっかり身につけてほしい。 ・スマホについては、子どもの方が詳しくあったりする。使い方や注意すべきことについて、教師や保護者もしっかり理解することが必要である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・「思考する授業」や授業改善の中で、生徒の思考、判断、表現のいろいろな力を身につけられるよう取り組みを進める。 ・授業での活用的一方で、スマホ依存にならないよう、自分でコントロールする力を身につけられるように指導していく。			

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
2 個別面談や学習活動を通じたきめ細かな指導により、生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	① クラス全体の指導やきめ細かい個人面談などを通し、生徒の進路意識を高め、設定した進路目標を実現するために自ら能動的に学習し、学力を高める努力をするような意識づけを行う。	【1・2年】9月の進路志望調査で、国公立大学を目標とする生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 60%以上 【3年】9月の進路志望調査で、金沢大学以上を目標とする生徒が A 80人以上 B 60人以上 C 40人以上 D 40人未満	【1年】90.1% A評価 <90.6% A評価> 【2年】89.5% B評価 <80.7% B評価> 【3年】83名 A評価 <67名 B評価>	【1年】1学期からの文理選択指導や夏期補習中の文理選択予備調査や早期の進路指導を手厚く行い、進路意識の涵養と学習への意識付けを行っており、集計上初めて90%を上回った。 【2年】1年次より継続して生徒の進路意識を高め、クラス全体の指導やきめ細かい個人面談などを通し、高い志望を掲げ学習に取り組ませたことでB評価と高い数値となった。 【3年】金沢大学以上を目標とする生徒の割合が昨年度の3年生の25%をさらに上回る27%となり、高い志望を叶えた先輩たちの存在や継続した国公立を目標とする指導の成果であると考えている。
	② 進路指導課から各学年、教科に方針を発信することにより、教員全体の相互理解を深め、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。	1,2年生の学力試験で国語、数学、英語の各教科の全国偏差値が A 平均偏差値50以上 B 平均偏差値48以上 C 平均偏差値45以上 D 平均偏差値45未満	【1年】国語48.5 B評価 (48.1:B評価) 数学47.7 C評価 (51.0:A評価) 英語46.2 C評価 (45.8:C評価) 【2年】国語48.8 B評価 (48.6:B評価) 数学50.2 A評価 (45.6:C評価) 英語47.1 C評価 (46.4:C評価)	11月進研模試の3教科総合全校偏差値は、1年が46.9、2年が48.7であり、1年は7月と同程度、前年度比で下回ったが、2年は前年度比は上回るものの、7月比で下回った。特に2年は1年時より高い数値を維持して進級してきたが、昨年度の傾向と同様、夏休み以降に伸び悩んだ結果が数値となって現れている。今後は3年0学期といわれる3学期の取組を工夫して学習習慣の再確立と学力の伸長に力を注いでいく。
	③	1,2年生の国語・数学・英語の学力試験全国偏差値54以上の生徒が A 55人以上 B 45人以上 C 40人以上 D 40人未満	※( )は7月進研、< >はH28年11月進研 全国偏差値54以上の生徒 【1年】15名：D評価 (23名：D評価) <35名：D評価> 【2年】49名：B評価 (60名：A評価) <27名：D評価>	1年は、7月・前年度比ともに人数が大幅に減少した。 2年は、平均偏差値と同様に前年度比では伸長しているものの、7月比では大きく数値を減じ、評価もAからBへと下がることになった。受験記述力の指標となる文系国数英は37名と昨年の34を上回るも、理系数英が8名と昨年の11を下回るため、特に理系上位層の育成を意識した取組をはかっていく。
	④	金沢大学以上の国公立大学合格者数が A 15人以上 B 10人以上 C 5人以上 D 5人未満  国公立大学合格者数が A 70人以上 B 65人以上 C 55人以上 D 50人以上  難関私立大学合格者数が A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 10人未満	金沢大学以上の国公立大学合格者数 5名 C評価 北海道大1、大阪大1、名古屋大1、 金沢大2  国公立大学合格者 76名 評価A  難関私立大学合格者10名 C評価 法政大1、立命館大5、関西大3、関西学院大1、	3年前の特進クラス・エクシード設立以来、連続しての旧帝国大学現役複数合格を果たした。一方で、昨年度と同様、偏差値上位層が少なく、金沢大学への合格数が伸びなかったため、要因である英語力の強化について関係部署と連携した取組を実践していく。  3年連続で70名をこえる創立以来最高水準を継続した。地元大の独立日程試験の影響で合格者数を増した昨年度の現役88には及ばないものの、在校生のみで71の合格となり、過去最高の昨年度に続く合格数となった。  私立大学や専門学校などを志向する私立文系クラスの上位生徒が多様な進路を志望する生徒たちであったことと近年の全国的な私立大学入試の難化傾向が影響し、過年度生を含む難関私立大学の合格者数は昨年度は上回るものの伸長させることはできなかった。一方で、地元私立大学の合格者数は増加した。
学校関係者評価委員会の評価	・数値目標が重視されるが、数値だけで測れない重要なことも多い。数値だけにとらわれるのではなく、生徒を中心にすえて、本質を考えた学校運営を進めてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・目指すべきものと数値目標の在り方、実際の取り組みについて再度検討するとともに、生徒の希望に対応した指導を進める。			

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
3 部活動や生徒会活動の活性化とともに地域行事への積極的参加に努め、チャレンジ精神の涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者に「朝の挨拶運動」を始めとしたPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらおう。	学校行事やPTA活動で保護者が来校した回数の平均が4回以上の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	13.8% : D評価 (10.6% : D評価) 〈14.1% : D評価〉	4回以上来校の割合が3年生で昨年43.1%から大きく減少、逆に1年生で13.6%から微増し、微減の結果に影響した。3回以上来校の割合が昨年より4ポイント増加しているが、2回以下の層が一番厚い。総会の来校数は昨年より増加(162→222)、一方で朝の時間帯実施の挨拶運動参加者は減少(520→496)した。保護者の多忙化も背景にあると思われるが、その中であつてもより気軽に来校できるよう、工夫と呼びかけを続けたい。
	② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	ホームページ上の更新回数が A 45回以上 B 35回以上 C 30回以上 D 30回未満	200回以上 : A評価 (100回以上 : A評価) 〈64回 : A評価〉  内訳 学校日誌等 : 148回以上 校長室の窓辺から : 41回 部活動、明倫新聞 : 20回以上 (1月21日現在)	システム更新により発信しやすくなったことで更新回数が増えた。一方で、保護者の57%が本校ホームページを「よく見ている」「たまに見ている」43%が「見たことがない」と回答している。見た方が学校の行事、進路等を話題にできることはもちろんだが、見てくれる方が増えることをめざして、情報をこまやかに発信する姿勢を続けたい。
	③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図る。生徒のチャレンジ精神と部活動の実力向上を目指す。	1,2年生の部活動の加入率が A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	88% : B評価 1年95% 2年81% 〈93% : A評価 1年95% 2年91%〉	4月当初の部活動加入率は1年生100%、2年生86%であったが、12月現在は、1年生95%、2年生81%である。2年生では下がり気味になっているが、生徒の部活動に対する意識は依然として高いので、生徒が安全に充実した活動ができるように支援したい。 一方で、部員不足からチーム編成に苦慮している部も複数あるため、来年度に向け生徒課としての支援方法を検討する。
	④ 明倫祭の外部公開を継続し、校内開催と校外開催の内容を検討し、本校の外部に対する情報発信力を高める。	1日目の来場者数が A 900名以上 B 700名以上 C 500名以上 D 500名未満	1日目(9/1 土) 814名 : B評価 2日目(9/2 日) 476名  〈29年度 1日目(9/2 土) 770名 : B評価 2日目(9/3 日) 439名〉	1日目の増加は明倫祭に対する認知度や期待度が高まっていることと、PTA役員の協力体制が確立していることが結果と考えられる。来年度もより良きものとするように、今年度の内容検討・吟味を行う。
	⑤ 図書委員会による本の読み聞かせや本の紹介カードの作成・展示、公立図書館からの本の借り受けなど地域と連携した活動を行うことで生徒のチャレンジ精神の涵養を図る。	地域と連携した図書委員会活動の回数が A 年間10回以上 B 年間8~9回 C 年間6~7回 D 年間6回未満	年間8回 : B評価 〈11回 : A評価〉	野々市市立図書館の学校図書館支援サービスを利用し、企画展示を行った。また「絵本の読み聞かせ」は、今年度も野々市市立図書館主催の「読み聞かせチャレンジ講座」を受講し、ふじひら保育園の園児や館野小学校の放課後子ども教室の児童を対象に行った。また12月にカレード見学を行った。その他、近くの書店の方に来ていただき、ポップの作成講座を開いたり、明倫祭では企画展示を行った。
学校関係者評価委員会の評価	・学校からの変更連絡が必要な機会が多くなっているように思う。普段の様子なども含めて、学校側からさらにしっかりと情報発信をしてほしい。 ・明倫祭は、保護者や地域の人が学校に来てその様子もよくわかるので非常によい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・ホームページやメール配信を利用し、さらに適切な情報発信を進める。 ・明倫祭は、保護者の皆様の協力をいただきつつ、さらによいものとなるよう考えていきたい。			

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、挨拶を自分からすすんでしっかりとできた生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	a とても 73.0% (71.0%) 〈67.9%〉 b やや 27.0% (28.0%) 〈31.2%〉 a+b= 100%: A評価 (99.0%:A評価) 〈99.1%:A評価〉	保護者や全職員による登校指導や、有志による挨拶運動によりあいさつをする環境が生まれ、生徒は自然と挨拶を行うようになっている。
	② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことを通じて、規範意識を育成する。	制服を意識的に正しく整えている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	a とても 70.0% (74.0%) 〈70.6%〉 b やや 27.0% (24.3%) 〈25.9%〉 a+b= 97.0%: A評価 (98.3%:A評価) 〈96.5%:A評価〉	全職員の共通理解の下、挨拶を通じての一声運動を行っていく。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	交通ルール(自転車の二人乗りや携帯電話を操作しながら等の運転をしない)を遵守している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	a とても 77.0% (77.0%) 〈74.8%〉 b やや 19.0% (19.2%) 〈21.0%〉 a+b= 96.0%: A評価 (96.2%:A評価) 〈95.8%:A評価〉	アンケートで見ると規範意識自体は高いが、県警の指導実績等で見ると、並列走行などに対して違反であるという認識が薄い生徒が若干存在していることがうかがえる。細かな指導と啓発活動が急務である。
	④ 学校内外のボランティア活動への自発的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。	ボランティア活動に、自発的に参加した生徒の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	a 自発的複数回 4.5% 〈6.3%〉 b 自発的 7.6% 〈6.0%〉 a+b = 12.1% : D評価 (12.3%:D評価)	準備したボランティア活動の機会においては多くの生徒が参加し取り組んでいるが、「自発的」な活動とするところに課題がある。「自発的」ボランティアをより活発化させるための啓発、広告募集活動を進めていきたい。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	学校生活が楽しいと感じる生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	83.7%:B評価 (82.7%:B評価) 〈82.4%:B評価〉  1年 82.8% 2年 85.2% 3年 83.7%	7月に比べ、全体としては楽しいと感じる生徒の割合が若干増えている。学年別で見ると、2、3年生で微増しているのに対して、1年ではやや減少しており、年度が進むに連れて行き詰まりを感じている生徒が見て取れる。
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	生徒の変化に対して a(素早く対処し、解決に至った)、b(素早く察知し、対応することができた)の割合が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	a+b= 100% : A評価 (93.6% : B評価) 〈92.7% : B評価〉	生徒の状況についての情報交換が密に行われるようになり、早期の対応が取られている。その結果、教室に復帰できた生徒もおり、また、自分にふさわしい進路に向かって一步踏み出した生徒もいる。しかしその一方で学校生活に息苦しさをを感じる生徒が増えており、今後も困難を抱えている生徒に対して、一人ひとりの状況に即した進路実現をめざして、支援を継続していく必要がある。
	⑦ 歯科検診の結果で健康管理上、受診・治療が必要と診断された生徒に対し、個人面談を通して自己の健康課題を意識させ医療機関での受診率を高める。	歯科検診の結果から自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合が A 65%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 45%未満	67.2% : A評価 (51%:C評価) 1年生 80.8% 2年生 70.5% 3年生 57.7%	3年生の受診率がなかなか高まらなかった理由として、放課後補習や土曜日の模試で学習を優先していることが考えられる。次年度以降は、3年生への個別指導を1学期中に実施する。1月時点での受診率であり、年度末までさらに個別指導を行い受診率を高めたい。
	⑧ 図書委員による図書便りや本の紹介冊子の作成・発行などの図書案内や各学年団と連携した一斉読書や読書タイムといった読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が A 6.0冊以上 B 5.0冊以上 C 4.0冊以上 D 4.0冊未満	1.8冊 : D評価 (1月5日現在) (3.6冊 : D評価 (1月15日現在) )	今年度は改修工事があり、7月から10月までは保健測定室を臨時図書館として図書の貸出のみを行った。それが大きな原因と推察されるが、1人あたりの貸出冊数は昨年の半分となった。生徒の学習や進路研究に利用しやすいように、進路関係の書架を学習室に移動させた。
学校関係者評価委員会の評価	・挨拶は対人関係の基本である。是非しっかり取り組んでほしい。 ・世代間のコミュニケーションをうまくとれるよう、ボランティアなどの機会をさらに活用してはどうか。			

学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策

- ・自主的な挨拶ができるようになることを目指して、保護者の皆様の協力もいただきつつ挨拶運動を進めていく。
- ・生徒が様々な人とのコミュニケーションを経験できるよう、いろいろな機会を活用していく。

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
5 教職員の資質や指導力の向上を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。	① 業務負担の軽減や時間管理の改善などにより、職員の多忙化改善を進める	時間外勤務が80時間を超える教職員の月平均の人数が A 2.0人未満 B 3.0人未満 C 4.0人未満 D 4.0人以上	7.1人/月：D評価 (8.8人:D評価) 4月 11人 5月 12人 6月 8人 7月 9人 8月 4人 9月 8人 10月 6人 11月 6人 12月 0人	授業や校務、部活動指導で、月80時間を超える教職員は相変わらず多い。100時間を超える先生も毎月平均2.5人あまりいるのが現状である。教育の質を確保しつつ、業務改善や先生方の意識改革で、過重な労働とならないようさらに取り組みを進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・業務改善は進めてほしいが、たとえば部活動は学校の元気にもつながる。バランスも考えて取り組んでほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・教育の質を維持しつつの業務改善を検討、推進する。		